

〔和漢三才圖會九十二末〕繡線菊 俗云之毛豆介。

按繡線菊高一二尺、葉似蒲荷葉而小、五月開碎花狀似胡蘿蔔而淡赤色可愛、又有白花者、一種樹有繡線菊、其樹葉似粉團花、而枝頂上開花、狀似繡線菊、故俗呼曰木繡線菊未知其名。

〔枕草子三〕草の花は

しもつけのはな

〔和泉式部續集下二十日〕とほきほどよりとみゆるふみをもてきたれば、さもやとおもひてとは

すれば、あらぬ所のなりけり、

しもつけの花とみるこそかひなけれ人のとふべきみかはと思へば

〔散木弄詞集隱十題〕しもつけ

恨みても何にかはせん花みると今朝しもつけぬ心せばさは

狼牙

〔本草和名十〕牙子、一名狼牙、一名狼子、一名犬牙陶景注云、狼牙一名成牙、一名支蘭、一名天牙、一名狗

牙、一名代、一名竈、一名附子正月根名之、已上七名出釋藥性、和名字末都奈岐。

〔倭名類聚抄二十〕狼牙 陶隱居本草注云、狼牙一名犬牙和名古末、根牙似獸牙齒、故以名之。

〔箋注倭名類聚抄十〕千金翼方證類本草中品有牙子、云一名狼牙、一名犬牙、則二名並本條之文、源

君引併爲陶注非是、○中蜀本圖經曰、苗似蛇莓而高大深綠色、圖經曰、根黑、

〔書言字考節用集六〕植略狼牙草、根黑若獸牙、金剛草同犬牙草、支蘭又云

〔大和本草九〕狼牙草、葉如蘿蔔有岐、ヨコ廣シ叢生ス、熱グサトテ俄ニ赤ク腫ル、ニ、此草ヲス

リテ付レバ忽愈ユ、其生ナルシボリ汁ヲノミ、或センジテノム、或云外ニ此草ヲツケ、内ニハ紫花

ノキラシ草ヲモミテ、其汁ヲ吞ベシ、又金瘡ノ血ヲ止ム、モミテ付ベシ、小兒ノ赤草ナドニ用、必效

アリ、別ニ又大根菜ト云草アリ、